

第10回幼児教育実践学会



幼稚園における 特別な配慮を要する子どもと 保護者への支援とは



学校法人かもめ幼稚園

田中 美幸

1・はじめに

2・研究の目的

3・研究の方法

4・実践記録 Case 1～Case23

5・考察

研究のまとめと今後の課題

6・おわりに

1・はじめに



1000km



(1) 本園の概要

* 本園の教育目標

ゆたかな心、やさしい子

みんなで仲よく、きまりのある子

よく遊び、よく学びとる子

自分でできる子、しようとつとめる子



(2) 2010年

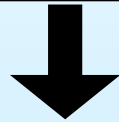
鳥取大学医学部脳神経小児科の指定を受け

**「発達障害児の早期療育における医療・
保育の連携モデル事業」** が本園で実施された。

(3) 園内の情報共有

話し合いの場を随時設けて園児・保護者
ひとりひとりに対して職員が共通理解をする。

子どもの姿・保護者の願いや現状



定例の「**成長を話す会**」
日々の職員会での報告・学年会・など



幼稚園内での一貫した支援体制

2 ・ 研究の目的

実践研究を基に

「幼稚園のできること」

「発達課題のある子どもとその保護者へのかかわり」

を4つの視点に着目して研究を進めた。

- 1 ・ 幼稚園が保護者と子どもに寄り添うこととは何か
- 2 ・ 個別支援と専門機関との連携
- 3 ・ 就学につなぐ
- 4 ・ 保護者としての自己有能感を支える場としての幼稚園とは

1 ・ 研究の方法

対象児：A児（女）3歳6カ月で入園

在園期間：201X年4月～201X+3年3月（3年保育）

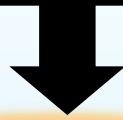
保護者から入園時に情報提供は、なし
入園後、3歳8か月で診断・自閉症スペクトラム

3歳児健診後、医療受診・言語発達に課題があった。
医療機関から児童発達支援センターへの通所を
進められたが幼稚園に入園することを伝え経過観察。

《入園直後のA児の様子》

- ・ 保護者と離れることに不安がなく「お母さん」「お父さん」というフレーズに反応がない
- ・ 気に入ったフレーズの言葉を発するが、意味のある発語はない。
- ・ CDデッキのスイッチや電子音を好む
- ・ トイレの便器の水に執着し、紙を詰めて水遊び、寝転ぶ
- ・ 手洗い石鹸液で顔や髪を洗う など

保護者の姿・各機関との連携・幼稚園の介入



1期：ひとりを好む時期
(年少4月～年少9月)

2期：大人を求める時期
(年少10月～年中3月)

3期：集団の中で育つ時期
(年長4月～年長3月)

3 ・ 実践記録

1期：ひとりを好む時期
(年少4月～年少9月)

Case 1 ・ 入園式 年少 4 月

園の気づきが始まる

Case 2 ・ 初めての提案「おかあさん」

親子関係の希薄さを感じる

Case 3 ・ 整理カゴ

《 目的 》

- ①A児の園の様子を家庭でも感じてもらいたい
- ② A 児のトレーニングのため



Case 4 ・ 写真ツール 年少 5 月

《 目的 》

- ①A児の園の様子を家庭でも感じてもらいたい
- ② A 児が今、興味を持っていることを
両親に知ってもらう
- ③身近な物の写真から発語
へとつながるようにする



写真ツール



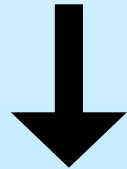








両親が A 児の変化を身近に感じる



前向きなかわりが生まれる

Case 5 ・ 児童発達支援センター親子登園を紹介 年少 6 月

Case 6 ・ 児童発達支援センター親子登園の 見学に同行する 年少 7 月

「Aの言葉を増やしたい、
一学期このままで大丈夫だろうかと不安でいっぱいだった」

Case 7 ・ 母親に相談 年少 9 月

《 目的 》

- ① A児の好きなものがあることで、
その場所が安心できる場所になるため
- ② 両親に療育のアイテムを提案して
もらうこと
- ③ 個別の配慮の必要性を両親が感じる

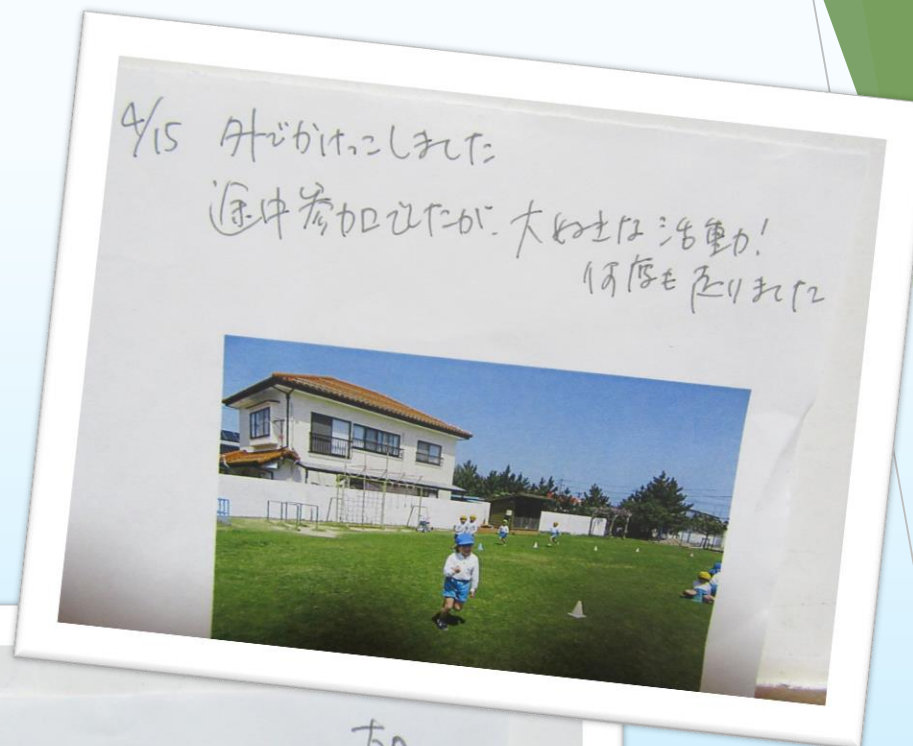
Case 8 ・ 活動の写真

《 目的 》

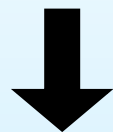
- ① 両親が園での様子、活動を知る
- ② A 児の活動している写真を見て、親子の会話を増やすため
- ③ A 児が写真を見ることで、友だちに興味を持つきっかけを作る



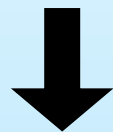
活動の写真



**親子のスキンシップ
A 児の気持ちの代弁**



周りの友だち・活動に関心が広がる



両親が A 児と向き合う楽しさを得る



2期：大人を求める時期
(年少10月～年中3月)

Case 9 ・ 母親の変化

年少10月

児童発達支援センター⇔両親⇔幼稚園
が有効に機能し始める

年少2月

児童発達支援センターで他の母親と
親しそうに話し子育てについて相談しあう
母親の姿があった

Case10・鳥取大学 井上研究室より
療育プログラムの依頼
年少2月

Case11・鳥取大学 井上研究室
応用行動分析による
個別の療育プログラムが開始
年中4月

Case12・集団参加を目的としたA児の役割
年中5月

Case13・名前カード
年中7月

Case14・ボーリングゲーム
年中9月

3期：集団の中で育つ時期
（年長4月～年長3月）

《年長組進級時のA児の様子》

- ・「～する」「したかった」と思いは伝えるが会話はできない
- ・友だちをモデルにし行動を真似することがある
- ・欲しいものがあると欲求を我慢できない
- ・こだわりが強く、思うようにならないと奇声を出す
- ・ひらがなの読み書きができる
- ・生活経験からイメージすることはできるが言葉からの理解は難しい

Case15・就学選び研修会への参加 年長 8月

Case16・参観日のA児への配慮と母親の気持ち 年長 9月

《 目的 》

- 1) A児が事前に練習することで活動をイメージして参加できる
- 2) A児の取り組み方を両親が知る

母親は...
A児と友だちとの関係に着目

Case17・地域小学校の特別支援学級を見学 年長 9月

Case18・就学先 決定「就学に向けての交流会」 年長10月

《 目的 》

- 1) A児が小学校の雰囲気慣れる
- 2) 両親が小学校の先生に出会う
- 3) 交流でのA児の姿を通し小学校・
両親・幼稚園と就学に向けての連携を
深める

Case19・サポートブックの作成 年長12月

氏 名	生年月日	記入日
内容	保護者の願い・要望	園における支援
①生活健康	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、本児用のツール表を見せ、一日の活動を確認している。 ・身辺整理は毎日同じ流れで行い丁寧に行なう。 ・自分の科に世のりだてトイレに行くの活動の途中に尿意を訴える。 ・偏食がある。白飯、パン、肉、魚、は食べる。 ・ロッカー、下駄箱は上段の端を出し入れしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ツールの表示文字は、6文字以内、イメージしやすい言葉は、活動する場所や、使う物を伝えるとよい。 ・毎朝の片付けが終わった後、本児が「うん」と尿意を訴える。理解し、活動できるようにサポートする。 ・完食するまで待つ。完食したら、片付け、お片付け、最後に好きな遊びという良い流れを作る。

両親は...

A児の今の姿を ありのままに受容

	<ul style="list-style-type: none"> ・集団登下校には、早での送迎をする事を許可してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)児のよさを理解し、受け止める。本児がイメージしやすくなるようにする。
--	---	--

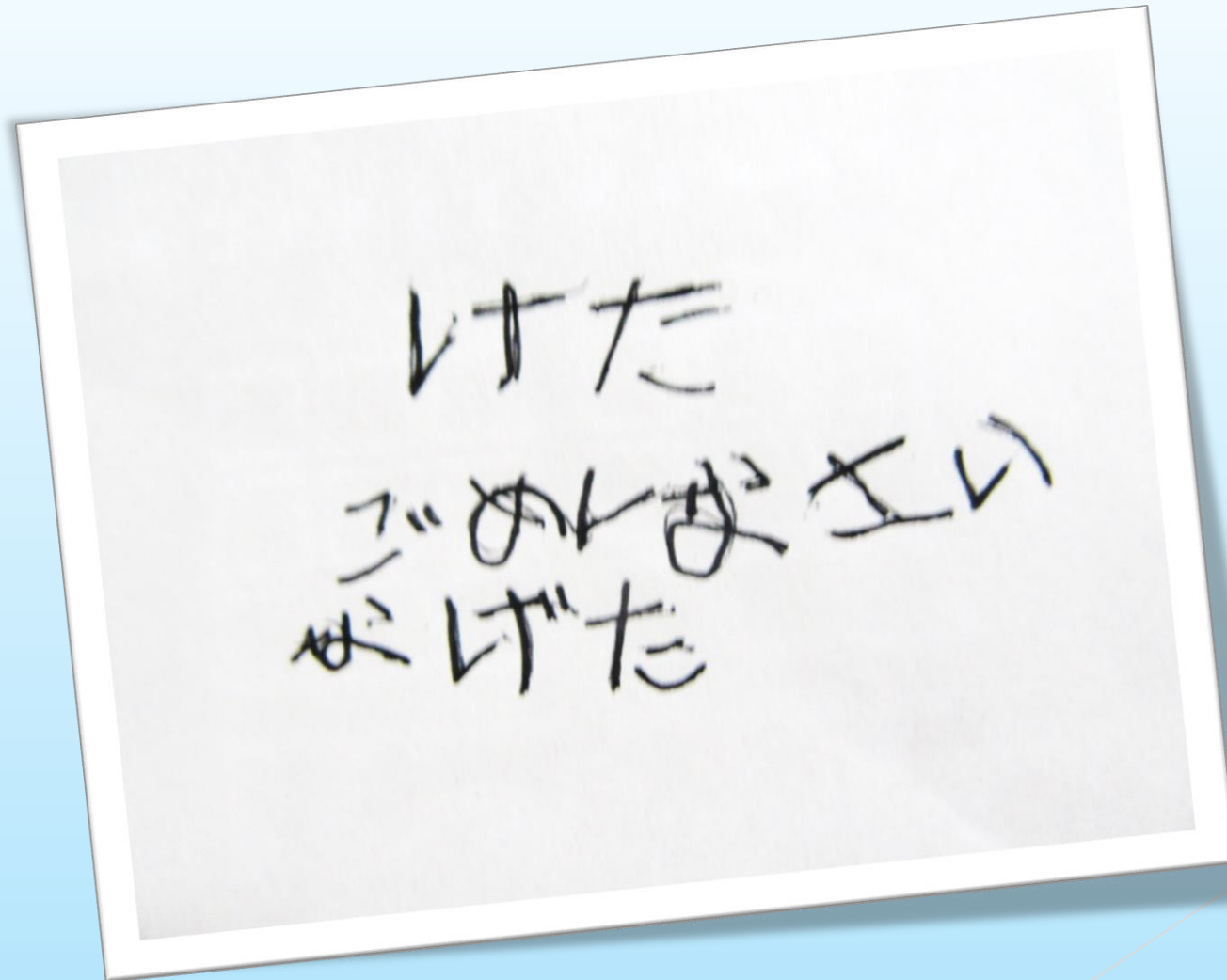
* 就学について意見・要望は上記のとおりです。

* サポートシート、個別の教育支援計画を作成し、小学校に情報を提供することに同意します。

平成

保護者氏名:

Case20・「ごめんなさい」気持ちを文字に 年長2月



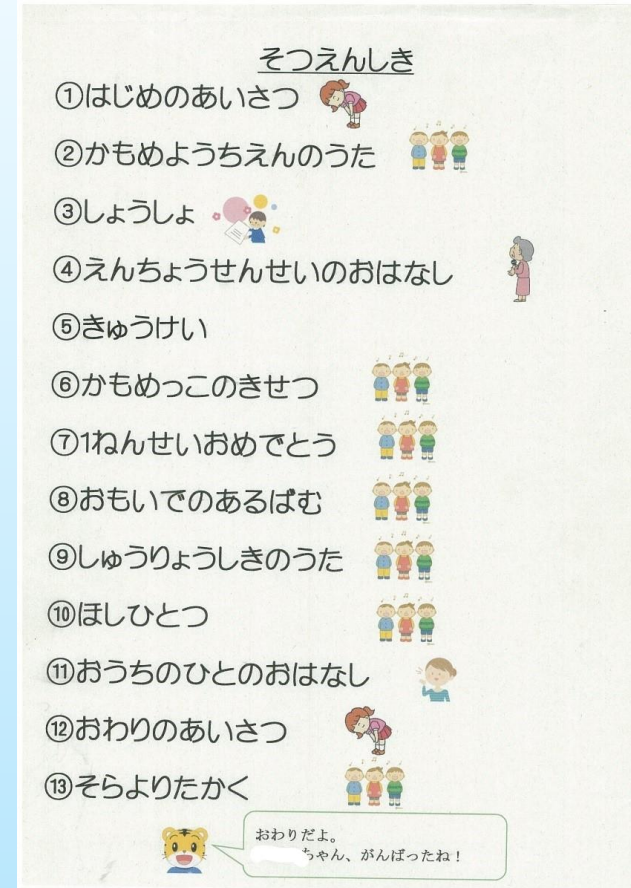
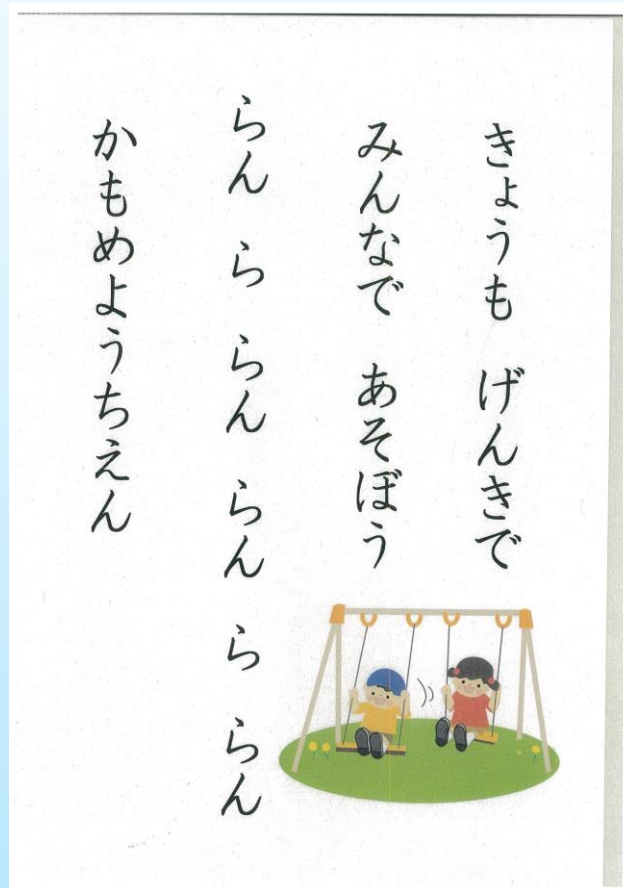
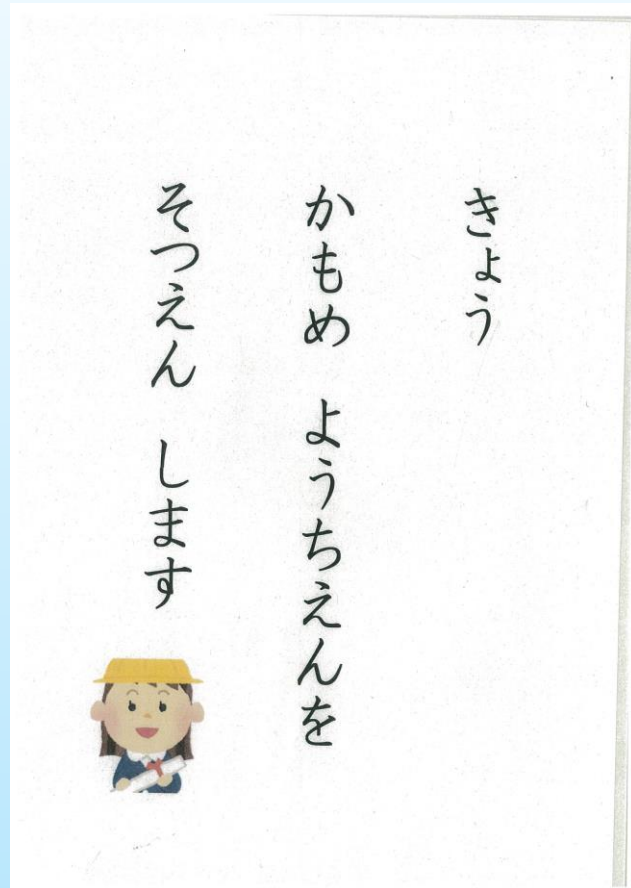
Case21・A児の気持ち 年長3月

同じクラスの母親からの連絡

Aちゃんは友だちが好きで...
大好きな人にはそうするの！
だからもう、私は大丈夫！

～我が子がこんなことを思うんだと知り驚きました

Case22・卒園式の配慮 年長3月



Case23・支援の連携 就学後5月

「支援計画表」の内容確認

A児のこれからの支援・内容・両親の要望を
幼稚園と母親とで確認した。

5・考察

研究のまとめと今後の課題

2・個別支援と専門機関との連携

《幼稚園における個別支援とは》

周りとのつながりの中で

「その子らしく生きること」

《専門機関との連携のいとうち》

～子どもと保護者に関する支援会議のポイント～

- ①子どもの発達に応じて、どのような専門機関との連携が適しているのかを検討する。
- ②保護者に利用可能な専門的な支援の提供をする。
- ③必要に応じて幼稚園側が関係機関に同行する。

3・就学へつなぐ

幼稚園が
関わる

保護者の安心感

保護者が子ども
の発達の見通す

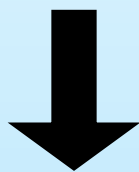
この子はこういう特徴
を持っている。
こういう生活が必要...

保護者自身の自信につながる・

子どもの発達にも影響

4・保護者としての自己有能感を支える場として

保護者が
「子どもとの日々が楽しい」
と思えること



子どもの成長を促す

幼稚園における

「子どもの発達段階に応じた個別支援および保護者支援の方法」

スタート：

保育者が子どもの発達の課題に気づく



Step 1：幼稚園が育児不安を共有する



Step 2：幼稚園として保護者と子どもに寄り添う



Step 3：個別支援・専門機関との連携



Step 4：就学へつなぐ

ゴール：

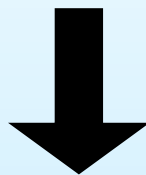
**保護者として自己有能感を得る
その子らしく育つ**

幼稚園としての役割の構築

幼稚園内での一貫した支援体制

◆今後の課題①

幼稚園における発達に課題のある子どもの育ち



幼稚園側から専門機関や就学先などの
関係機関に発信する必要性

◆今後の課題②

常に専門的な知識を学び、
早期の段階で子どもや保護者に
関わっていくこと

6 ・ おわりに

ご清聴、ありがとうございました。

